

## 平成29年度 成さん亥さん達の田作り

### ～第11期大椎っ子田んぼ、第8期あすみっ子田んぼ 番外編① あすみが丘小の先生方から～

今年度も無事に子どもたちと一緒に田作りすることができました。ご協力いただいたボランティアの皆さまありがとうございました。なにより、忙しい学校行事の合間をぬって田んぼの授業を組み立ててくださった先生方のご理解があってこそこの活動です。今月号ではあすみが丘小の先生方から子どもたちの成長や活動の意義をご報告いただきます。

#### ★千葉県立あすみが丘小学校長 小川 純一

初夏の頃に水田の上を通る湿った風のおいを感じると、日本に住んでいて良かったと何故かしら思います。私が子供の頃、田の畦で遊んだ経験があるからかもしれません。地域の皆さんが大切にしている水田をお借りして、あすみ小では稲作を体験しています。

大空の下で田んぼの様々な生物に出会い、植物の草いきれに触れて「お仕事(作業)」をしていると、私達人間も自然環境の中で生かされていることを感じます。そして、稲作は驚きがたくさん。一粒の籾から芽生えた細い苗が、数カ月後に分けつして束になった稲に育ち、夏の日ざしを浴びて花を咲かせ、秋に稲穂が実る。同時に春に見たオタマジャクシが夏には蛙になり、雑草もたくさん生えてくる。時折田んぼの様子を見に行った子がその変化に驚いて帰ってきます。そして、手入れが必要なことを理解します。谷津田の空間は命あふれる場所、理屈よりも感覚で学び、感性を豊かにします。子供の頃にこういう「肌で感じる」経験を持つことは、とても大切なことと考えます。収穫後に稲穂を乾燥し、脱穀・籾すり・精米を行って、炊き上がったご飯をほおぼる子供の顔は豊かな表情をしています。学校では稲作の「お仕事」を総合的な学習の時間として学びにつなげていますが、子供たちの心には思い出として深く残るようです。得がたい学びの場を提供してくださる地主の方、環境に関わる知識・稲作の技術を指導してくださるYPPの方々と、ボランティアの皆様の努力があって、この活動を通して「人」を育てていただいていることに感謝申し上げます。



#### ★5-1 田村 貴広

あすみが丘小学校に赴任して、2度目の5年生となりました。今年度も多くの方々に支えられて、あすみ田んぼの活動が無事に行われたこと、心から感謝申し上げます。近代化が進み、多くの自然が失われていく

昨今の日本社会において、子どもたちが自然と触れ合える機会は年々減少傾向にあります。加えて、山や川など、自然を生かした学習を行うことも、子どもの安全に配慮する



関係上、昔のように簡単にはいなくなっています。そんな中、あすみが丘小の5年生は、地域の方々の協力のもと、米作りの体験ができています。これは大変貴重な経験であり、幸せなことです。

代掻き・田植えから始まった「あすみ田んぼの1年」は泥にまみれることをいやがらない活発な子どもたちと、活動を支えて下さったYPPの方々やボランティアの方々ののおかげで、楽しく、充実したものとなりました。子どもたちは、自分たちで植えた稲の成長に喜びを感じながら、自然の偉大さはもちろん、命の大切さや食べ物大切さを学び、大きく成長することができました。計画・準備・当日と多くの時間を必要とする活動ではありますが、子どもたちにとって貴重な経験である「あすみ田んぼ」をこれからも可能な限り続けていけるよう、今後もYPPの方々やボランティアの方々におかれましては、ご支援くださいますようお願い申し上げます。1年間ありがとうございました。

#### ★5-2 間口 貴文

あすみ田んぼに通ったこと、それは子どもたちにとって気持ちの変化があるものでした。私も一年を通して子どもたちと一緒に田んぼの中に入れてもらいましたが、子どもたちの表情をよく覚えています。わくわくとした表情で田植えに取りかかった子どもたちは、コツを教えてもらいながら徐々に真剣な顔へと変わっていきました。その日の感想を見てみると、「田植えは大変だった。農家の方がこれだけ苦労してお米を作っているとわかったので、これからは感謝をして食べたい。」と書かれていました。自然観察では、公園などでは目にしない珍しい生き物がいることや、たくさんの生き物がいることを知りました。自然の多い

場所には多くの生き物がいること、また、生き物はこれだけの自然を好むこともわかったと思います。経験しなかったらわからないことを感じさせてもらえて、あすみが丘小の子どもたちは恵まれています。それも、田んぼの方々やボランティアの方々と同じ思いで、子どもたちに場を作り、手をとって教えてくださったからです。ありがとうございました。

#### ★5-3山崎 衿菜

社会科の学習で、五年生は米作りについて勉強します。苗が田んぼにない時期でも農家さんは働いていて、一年をかけてお米を育てていることが教科書にも書かれています。しかし、あすみ田んぼの学習から子どもたちは教科書を読むだけでは味わうことのできない気持ちを味わっています。真剣な顔へと変わった田植え。「田植えがこんなに大変だと思わなかった」「お米を作っている人に感謝をしたい」という感想をもった子が多くいました。稲刈りの帰り道、自分たちが優しく扱い大切に育てた稲を1本も落とさないように帰っていました。

私自身、初めての米作りを経験させていただき、今は白米を見てどれだけの苦勞と優しさ、そして時間がかけられてお米になったのかがわかります。しかし、教科書を読んだだけではわかりませんでした。ここまで育ててやっとご飯になったお米を残さないで食べたいという気持ちは経験しなければ持てませんでした。五年生は多くの方々のおかげで経験できました。大切なことを田んぼを通して教えていただいたこと、地元の方やボランティアの方や保護者の方々のご協力に感謝いたします。ありがとうございました。

#### ★5-4松岡 直子

田んぼといえば、子どもの頃、田植えの手伝いや水の調整のため家族が毎日のように田んぼに足を運ん



だことなどが思い出される。私にとっては、なつかしい思い出と共に「あすみ田んぼ」の学習が始まった。

田んぼに初めて関わる子どもたちも多くいたであろう。泥にまみれながらの田植え。生き物と触れ合う中で、楽しさだけでなく、やりがいのある仕事ととらえて行った。苗が倒れない工夫も学んだ。草取りは、暑い中での作業であり、米作りの大変さを知った。カマの使い方を知った稲刈り。収穫した稲を学校まで運んだ。昔の道具を使っての脱穀。貴重な体験と同時に、私たちの手にお米として届くまでの手間がかかることも実感できた。「百聞は一見にしかず」というように、実際に体験したことは、子どもたちの心に残るものである。米作りのほんの一部ではあるが、そのような機会をあたえてくださるだけでなく、子どもたちの活動が充実したものとなるよう計画や支援をしてくださったYPPの方々やボランティアのみなさんなど、田んぼにたずさわったみなさんに心より感謝したいと思います。

私が子どもの頃の思い出を語るように、あすみ田んぼでの学びが、かけがえないの貴重なものとなればと思います。本当にありがとうございました。

#### ◆今年も産卵ラッシュ！ ニホンアカガエル

背中が茶色いのですが、ひっくり返して見るとお腹から後ろ足にかけて赤い、谷津田を代表するカエルです。そのアカガエルの大きな特徴は真冬に産卵することです。例年、下大和田では、1月の下旬から2月の初旬に産卵が始まり中旬頃ピークを迎え、小山ではそれより1~2週間ほど遅れます。冬型の天気が緩み小雨が降るような夜に産卵が多く見られます。しかし、今年の1月から2月の最低気温は連日氷点下。あすみが丘内の住宅街でも-5℃を記録し、盆地のような地形の谷津田はそれ以上の寒さでした。田んぼに人が乗っても割れないほどの氷が張り、産卵できないのでは…と心配していましたが、アカガエルたちは春の訪れを敏感に感じ取っていました。下大和田では、2/1、小山では2/6に最初の卵塊が確認されました。その後、2/11の雨の後にはたくさんの卵塊が確認されました。産卵を終えた親は谷津を囲む林の中にも移動し再び冬眠するため、この時期には、なかなか姿を見ることはありません。オタマジャクシから成長した子ガエルの姿を見ることができるのは、田植えや草刈り時の初夏のころ。畦に上陸した



後は林の中に移動していきます。「谷津田を代表する」というのは、①カエルになって過ごせる谷津の林や草むらがあること、②真冬でも産卵できる湿田があることというアカガエルの生育条件が、谷津田の環境そのものだからです。近年アカガエルの数が減少しているのは、乾田化が進み、冬産卵できる下大和田や小山のような湿田がなくなっているためです。不思議なことに、同じ水たまりでも休耕田やあし原ではほとんど産卵が見られません。また、アマガエルのように手の吸盤がないため、コンクリートの水路などに落ちてしまうと登ることができません。まだ土水路の残る谷津田でしか生きられぬゆえ、貴重なカエルとなっているのです。アカガエルにとって住み心地よい田んぼ作り、今年も頑張ります！



# 里山たんけんレポート

## 第 217 回 下大和田谷津田の観察会とゴミ拾い

2018年2月4日(日) 晴れ

今日は産卵が始まったニホンアカガエルの卵塊観察とバードウォッチングです。1月中の産卵はありませんでしたが3日の下見の時に16個の卵塊を確認しました。1日と2日の晩に産卵したようです。その後産卵していないか観察しながら畦を巡りました。昨晩はYPPのコシヒカリ田にひとつ産んだだけでした。隣の田んぼではまだ卵塊は見られませんでした。今冬は強い寒波が来ていたので産卵は例年より遅れているようです。鳥の方はモズ、ホオジロ、シメ、ツグミなど出ましたが、双眼鏡を使い慣れない方はなかなか姿をとらえきれません。それでもシメ、ツグミは愛想良くつきあってくれたので皆さん双眼鏡でとらえられたのではないかと思います。いつもは飛び立たれてしまうクサシギもしばらく付き合ってくれました。広場のあたりまでは好調に鳥が出てくれましたがその先では猛禽でも出たのか全く鳴かず飛ばずになってしまい、ブッシュの中で動く姿が見える程度になってしまいました。確認出来た鳥は18種でした。終わりに谷津をまたいでいる道のゴミ拾いをしましたが、それぞれが持参の袋が瞬く間に満杯で入りきらなくなり、終了としました。残ったゴミの回収は次回行うことにしました。(参加 大人7名、高校生1名、小学生1名 報告・写真 網代春男)



## 第 217 回 下大和田 YPP「ニホンアカガエルの卵塊観察」と「森と水辺の手入れ」同時開催

2018年2月18日(日) 晴れ

二つの行事を一緒に行いました。朝はまだ氷が張っていたので「森と水辺の手入れ」のキノコの植菌から始め、ナメコ、ヒラタケ、シイタケの種駒を植えました。子ども達にも出来る格好の作業で一所懸命ドリルで穴をあけ種駒を木槌で打ち込んでくれました。ドリルの電池切れとなってヒラタケとシイタケの種コマは一部残り残ったので25日に残ったものは植えることにしました。

午後はニホンアカガエルの卵塊を田んぼ毎にカウントしました。YPP田133個、マイ田んぼ219個でした。産卵が早かったものは孵化が始まるようになっていました。実体顕微鏡2台で卵を観察しました。冬眠から一度覚めてまだ氷の張ることもある田んぼに産卵して再び冬眠する親ガエル、そんな中で孵化してオタマジャクシになる生態は驚くばかりです。

(参加 大人8名、小学生6名 報告・写真 網代春男)



## 第 152 回 小山町 YPP「広場の整理・あぜの整備 など」

2018年2月17日(土) 晴れ

土気 NGO のご厚意で木材をチップにする機械をお借りして、広場の一角に積み上げてあった、古くなった竹や枝を処理しました。この機械の内部には、厚い金属の板で作られた重たい歯が収められていて、それが大変勢いよく回転します。大量にあった木の枝や竹はみるみる粉碎され、全て小さく柔らかなチップとなりました。このチップを地面に敷き詰めることで、防草対策になるうえ、穏やかに分解していき、肥よくな土へと変わっていくとの事です。また、今月も引き続き水路と畦の整備、モグラの穴対策を進めました。あすみ小田んぼの畦からは滲み出るような漏水が各所に認められて、なかなか原因がつかめませんでしたが、畦の一部をくずして調べた結果、長〜いモグラトンネルが各所に通じていることがわかりました。それらをていねいに埋めていき、様子を見ることにしました。

(参加 大人6名、報告・写真 稲富理枝)



## <谷津田・季節のたより>

### 小山町

- 2月 6日 ニホンアカガエルの卵塊確認。(松下)  
2月 12日 ニホンアカガエルの卵塊 27 個確認。(たんぼぼ)  
2月 17日 ハクセキレイ、ヤマガラ、シヨウビタキ♀、暖かな空気。(赤シャツおやじ)  
2月 25日 セグロセキレイの囀り、シジュウカラの群れ、ツグミ、アオジ、アオサギ飛来。(たんぼぼ)

### 下大和田

- 2月 3日 ニホンアカガエルの産卵始まる。16 個確認。(1日、2日の晩に産卵した模様)。(網代)  
2月 20日 ニホンアカガエルの卵塊は 565 個になった。(網代)

### イベントのお知らせ

谷津田ってどんなところ? と興味をお持ちの方、お米づくりを経験してみたいなと思っている方、谷津田プレーランドプロジェクト(YPP)のイベントには大人から子どもまで、はじめての方でも好きな時にご参加いただけます。家族で、お友達どうしで、もちろん、お一人でも気軽にいらして下さい。

連絡先(いずれも) : ちば環境情報センター (TEL&FAX : 043-223-7807 E-mail : hello@ceic.info/)

- ご注意 : ・車でこられる方は必ず指定の駐車場に止め、農道などにおかないでください。  
・近くにトイレがありませんので、集合前に一度済ませておくご協力をお願いします。  
・小学生以下のお子さんは保護者同伴で参加ください。  
・けがや事故がないよう十分な注意は払いますが、基本的に自己責任でお願いします。

### ▼第 218 回下大和田 YPP「野草を食べる会」と 「生きものいっぱい谷津田の米作り」オリエンテーション 同時開催

セリやノビル、ハコベなど春の若菜を摘んでお浸しや天ぷらで味わいます。今年新たに米作りに参加する方のオリエンテーションも行い一緒に楽しみます。

- 日時 : 2018 年 3 月 17 日 (土) 9 時 45 分~14 時 ☆小雨決行  
場所 : 千葉市緑区下大和田谷津田 (ちば・谷津田フォーラムのホームページで地図をご覧ください。)  
集合 : 現地。初めて参加する方は駐車場や会場をご案内しますので事前に網代(あじろ) 090-2301-0413 までご連絡ください。  
交通 : JR 千葉駅 10 番成東あるいは中野操車場行きのちばフラワーバスで中野操車場バス停下車、徒歩 5 分で現地。<千葉駅発 8:25、8:40 など、所要時間 45 分>料金は 520 円。  
持ち物 : 弁当、飲み物、帽子、軍手、長靴、敷物など。  
参加費 : ちば環境情報センター会員および家族 100 円、一般 300 円、小学生未満無料  
主催 : ちば環境情報センター 共催 : ちば・谷津田フォーラム

### ▼第 219 回 下大和田 YPP「苗床作」と種まき

4 月 7 日は、いよいよ米作りの始まりです。古代米やコシヒカリなど 5 種類の種籾を播きます。

- 日時 : 2018 年 4 月 7 日 (土) 9 時 45 分~14 時 ☆小雨決行  
その他 : 場所、集合、交通、持ち物、参加費、主催については、218 回・記載参照。

### ▼里山くらぶ 森と水辺の手入れ

- 日時 : 2018 年 3 月 18 日 (日) 9 時 45 分~14 時 ☆小雨決行  
持ち物 : 弁当、飲み物、帽子、軍手、長靴、長袖長ズボンの服装、敷物など  
参加費 : 100 円 (小学生以上、資料代など)  
その他 : 場所、集合、交通、主催については、218 回・記載参照。



画 赤シャツおやじ

### ▼第 219 回下大和田谷津田観察観察会とゴミ拾い

サクラやコブシ、スミレやアマナなどの花の季節到来です。ウグイスの囀りを聞きながら谷津を巡ります。

- 日時 : 2018 年 4 月 1 日 (日) 9 時 45 分~12 時 ☆雨天決行  
持ち物 : 筆記用具、飲み物、長靴、帽子、敷物、ゴミ袋、午後まで活動する方は弁当など  
参加費 : 100 円 (小学生以上、資料代など)  
その他 : 場所、集合、交通、主催については、218 回・記載参照。

### ▼第 153 回 小山町 YPP「あぜの整備」など

来年度の米づくりに備えて、田んぼのあぜの手入れをします。

- 日時 : 2018 年 3 月 17 日 (土) 10 時~12 時 30 分 ☆小雨決行  
場所 : 千葉市緑区小山町 リンドウ広場 (ご連絡いただければ地図をお送りします)  
持ち物 : 飲み物、長靴(長めのもの)、帽子、軍手、敷物。  
参加費 : 100 円 (小学生以上、資料代など)  
主催 : ちば環境情報センター

■編集後記 2月に入ると早々、アカガエルの産卵を確認、半ばには、梅も各所でほころびて、あたたかな空気も織り交ざってまわりました。谷津の山からは、時折、ウグイス、シジュウカラの囀り。。。には今一歩の声を聞き。鳥たちも、恋の季節を目前にアップ※を開始している模様。我々も、田んぼの整備を加速せねばなりません! (赤シャツおやじ)

※「アップ」アスリートが競技まえに準備運動などして体を温める事。本番前の大切な儀式ですね。